

【各予防接種の副反応について】

高齢者肺炎球菌	各所の疼痛、熱感、腫脹、発赤、筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱、注射部位壊死または注射部位潰瘍がみられることがある。 重篤症例の発生頻度は、0.0018％である。(令和5年10月1日～令和6年3月31日までの数値。令和6年7月第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より引用)
高齢者インフルエンザ	重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー(じんましん、呼吸困難、血管浮腫等)があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30分以内に生じるが、まれに接種後4時間以内に起こることもある。 その他、ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、脳症、脊髄炎、視神経炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作、急性汎発性発疹性膿疱症の報告がある。 まれに接種直後から数日中に発疹、じんましん、紅斑、掻痒等があらわれることがある。 発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、発赤、腫脹、疼痛を認めることがあるが、通常2～3日中に消失する。 重篤症例の発生頻度は、0.00009％である。(令和5年10月1日～令和6年3月31日までの数値。令和6年7月第102回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より引用)
新型コロナワクチン	接種後に接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱など様々な症状が確認されているが、ほとんどが軽度または中等度であり、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められてないと判断されている。また、年少者である方が副反応出現率は低いともされている。なお、国内での検討では、若年男性を中心に心筋炎が報告されている。また、国内において重篤な副反応としてアナフィラキシーが報告されており、接種後30分はその場で健康観察をすること並びに接種後数日の間に胸痛、息切れ、ぐったりするなどの症状があった場合は医療機関の受診が必要。
带状疱疹ワクチン	発熱、発疹、鼻汁、咳嗽、注射部位紅斑・腫脹などがみられる。重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病がごく稀に(0.1%未満)報告されているが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれてる。 なお、麻しん含有ワクチンは、ニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため卵アレルギーによるアレルギー反応の心配はほとんどないとされている。 しかし、重度のアレルギー(アナフィラキシー反応の既往のある人など)のある方は、ワクチンに含まれるその他の成分によるアレルギー反応が生ずる可能性もあるので、接種時にかかりつけの医師に相談してください。

【参考】

- 予防接種実施者のための予防接種必携 令和6年度(2024)
- 厚生労働省ホームページ(带状疱疹ワクチン)